

令和4年度 医学群
教学 I R 実施報告書

はじめに

令和4年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響により、医学群の教育は大きな影響を受けました。その中で、条件付きではありますが医療者の教育に欠かせない実習を中心に対面での教育が再開しました。また、Web会議システム等を使用した授業運用についても様々な工夫が凝らされるようになりました。教職員、学生のICTスキルが急激に上昇し、その利点を生かした学修が行われる一方で、学生間の格差も拡大しているようで、今後の授業のあり方についてさらに検討する必要があるように感じています。

横浜市立大学医学部医学科においては、JACMEによる分野別認証評価を2016年5月に受審し、2018年4月から2024年3月までの期間で認証を受けており、二巡目の受審を2023年秋に控え、教職員で準備に取りかかっています。前回の受審結果の中で、教学IR体制のさらなる整備とその体制を利用した継続的な医学教育プログラムの改良の仕組みの構築についての指摘がありました。その後の医学科の改善状況の詳細については、毎年JACMEへの報告を行い、その内容は本学ホームページ上で年次報告書として公開されています。そこでこの記載に加え、2019年から全学的な取り組みのもと、医学科と看護学科を合わせて、この報告書を作成する運びとなったことを幸甚に存じます。

なお医学群に所属する学生数は、医学科定員90名/学年、看護学科定員100名/学年と少なく、個人が特定されやすい状況を踏まえて、情報の一部について概要のみの公開となることをご容赦頂ければと考えております。

医学群教学IR検討ワーキング長
医学教育学 主任教授
稲森 正彦

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 成績評価を集計し、講義、実習、演習の授業形態別の成績評価の傾向から現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されているか」を確認した
- 2 入試成績と入学後の成績の相関を確認した

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

<取組概要>

- 1 授業評価アンケート結果を用いて授業外学修時間が十分に確保できているかを確認した
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換した

1. 成績評価の分析（医学科・看護学科）

（1）実施内容

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認
- 2 入試成績と入学後の成績の相関を確認

（2）解析及び検討状況

- 1 成績評価を授業形態別に整理し、厳格かつ客観的に実施されているかを確認

現状の成績評価は「厳格かつ客観的に実施されている」といえるかを確認するためにまず令和3年度科目の成績情報を定めた条件に基づいて集計した。成績情報は、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不合格」という評価を点数化するGP（グレードポイント）を用いて科目群、授業形態の二つに分けてGP平均を算出した。GP平均の値を見ることで成績が厳密に評価されているかどうかを確認した。医学科、看護学科で分けてGP平均を確認した。科目群についてみると、医学科は2.4～2.7に推移しており「優（3）」と「良（2）」の間、看護学科は2.6～3.7で科目群間での評価の開きが見られた。一方授業形態別で確認したところ、「講義」「演習」「実習」のそれぞれで成績評価の傾向が異なる結果となった。講義と実習を比較すると、実習の方が「秀」「優」の割合が多くなる傾向が医学科、看護学科で同様に見られた。

これらの結果から医学部では科目群や授業形態によって特徴はあるものの概ね適切に成績評価が実施されていると判断した。

- 2 入試成績と入学後の成績の相関を確認

医学科、看護学科の入試成績と国家試験、入学後の成績（GPA）との相関はあるかを確認するため医学科、看護学科の入試成績と、国家試験合否、CBT成績、卒業試験成績、入学後成績（GPA）を用いて相関の有無を検証した。検証により優秀な学生の確保や入学後の成績推移から教育効果を確認した。結果、入試成績と入学後の成績では弱い相関関係が確認された。入試区分に分けて入学後の成績を比較すると推薦入学者が一般入学者よりも入学後の成績が良いことが確認できた。医学科では、入試成績と国家試験合否を比較したところ弱い相関関係を確認した。国家試験と強い相関を示す指標としては、CBT成績、卒業試験成績、6年生GPAがある。

これらの結果から入試成績と入学後の成績には一般的に相関が現れないことをワーキング内で確認した。医学科は入学後から臨床実習が開始されるまでの期間が長くモチベーションの維持が難しいとの声があることから1年次～3年次までの間に臨床を意識したカリキュラムの必要性について意見が出された。

（3）分析結果の報告

上記の分析結果について、以下の各種会議にて報告を行うとともに、結果を各学部教

授会で報告・共有し、各学部におけるカリキュラム改善を支援した。

- 医学群 IR ワーキング
- 医学科教授会・医学部合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）

2. 授業外学修時間の分析（医学科・看護学科）

(1) 実施内容

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認
- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換

(2) 解析及び検討状況

- 1 授業外学修時間が十分に確保できているかを確認

令和2年度、令和3年度の授業評価アンケートの結果をもとに、学生の授業外における学修時間の状況を把握し、大学設置基準や学部の通則に沿った授業外学修時間の確保を目標に対策を検討した。1単位の授業科目の場合、45時間の学修時間が必要だが、授業時間で補えない学修時間は授業外で行うことが必要となることを前提として確認した。医学科は、1日の講義に対する予習・復習の時間は、最も多いのが30分で約46%、1時間30分以上の時間を確保している学生が約10%であった。看護学科は、授業時間以外の1週間に行う該当科目の学修時間は、1時間未満で約38%、2時間未満が約30%で、2時間以上確保している学生は約13%であった。この結果から医学科、看護学科ともに十分な学修時間が確保できていないことを確認した。なお、解析に用いた授業評価アンケートは回答率が低く、データの信憑性乏しいのではないかと意見があり、正確な検討のためのデータ収集が課題となった。

- 2 学修時間を確保するための対策について意見交換

学修時間の確保には予習や復習の機会を創出することが一つ意見として挙げられた。学修時間の確保が目的ではなく、授業における理解の促進やディスカッションを活発に行うという観点を持つ必要があると提示された。医学科、看護学科ともに学年が進行すると、模擬試験や国家試験を見据えて学修時間が徐々に増えていくが、そういった学修できる環境の整備が必要であると意見が出された。その他に学習意欲を向上させる取り組みの必要性が提示された。

(3) 分析結果の報告

上記の分析結果について、下記の各種会議にて報告を行うとともに、結果を医学部教授会で報告・共有し、医学部におけるカリキュラム改善を支援した。

○医学群 IR 検討ワーキング

○医学科教授会、医学部・医学研究科合同運営会議

(4) 添付資料

- ・ なし（本概要のみ公開）